

事故のない社会を目指す

OCHISセミナー開催



ストらと積極的意見交換を行った。作本副理事長は「中間管理職が健康管理に関して熟

い思いを持っていても、トップがなかなか動かないという声を聞くことがある。事故防止に特化しすぎて健康管理は自己責任という認識があるようだ。セミナー

ヘルスケアネットワーク(OCHIS、武田裕理事長)は10月24日、「どう防ぐ!」急増する健康起因事故「治療完結までのSASSスクリーニング検査の進め方」の二つをテーマに、第9回OCHISセミナーを開催。トラック・バス・タクシーの事業者ら約100人が参加した。冒頭、武田理事長はOCHIS設立10年の歩みを振り返り、「当初はヘルスケアのネットワークを中心に考えていたが、途中からSASSを中心とした事業に特化してきた。新幹線の運転者の居眠りによるオーバーランをきっかけに、累計約6万人を超えるスクリーニング検査をしてきた」とあいさつ。今後

の徹底、飲酒運転根絶に向けた対策などを説明した。

「ドライブレコーダーが捉えた健康起因事故事例」と題し、ドライバークラッシュに急性心筋梗塞を発症し救急車で運ばれるまでの映像を上映した。さらに、黒田悦子保健師が「健康起因事故防止のためのプロセス」、作本貞子副理事長が「治療完結までのSASSスクリーニング検査の進め方」、労働科学研究所の酒井一博所長が「自己要因分析の重要性と安全運行支援について」、それぞれ講演した。

(木村麻理奈)

の活動展望については「SASSを含む多くの健康起因事故を、どうマネジメントするか、また医療者・事業者・運転者の間のネットワークを構築しながら管理を行い、事故のない社会をつくることを目指していきたい」と述べた。

第1部では、国土交通省自動車局の小林豊安全政策課長が「事業用自動車運転者の健康管理

第2部のパネルディスカッションでは、事業者から社内でのSASS検査や血圧測定に関する質問があり、パネリ

理」と題して国の施策を紹介。危険ドラッグなどの薬物の使用禁止の徹底、飲酒運転根絶に向けた対策などを説明した。